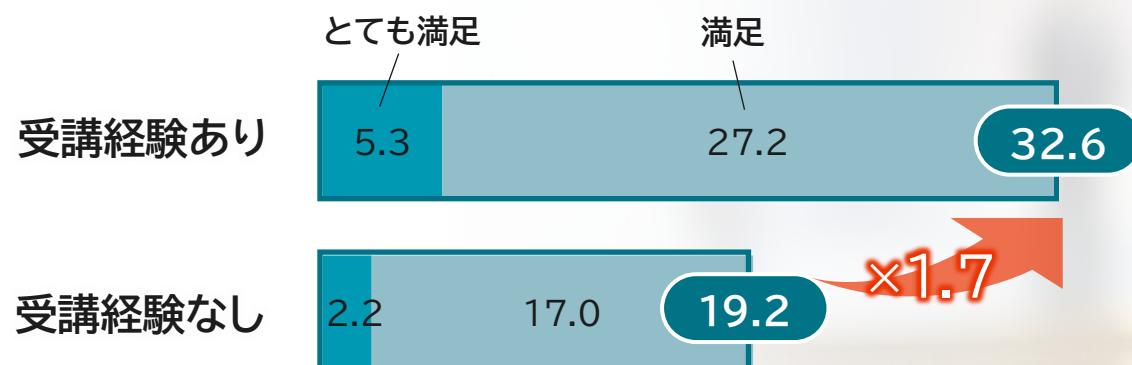


「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2025年)より

勤労者は金銭的報酬に 満足しているのか

—満足度向上のカギは金融教育と退職金水準の把握?—

図表4より 職場での金融教育経験別：報酬水準への満足度



三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所
研究員 清永 遼太郎



1. 調査名：「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2025年)
2. 調査対象：全国の18～69歳 ただし関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く
本レポートでは、職業について、「会社員(一般社員)」「会社役員・経営者」「公務員」「みなし公務員」「団体職員」「パート・アルバイト」と回答した者を対象に分析
3. 調査方法：WEBアンケート調査
4. 調査時期：2025年1月
5. サンプルサイズ：7,609
6. サンプルの属性(年代別)

18－29歳	1,373
30－39歳	1,427
40－49歳	1,836
50－59歳	1,936
60－69歳	1,037

7. 備考：図表の数値は小数点以下四捨五入。端数処理の都合上、合計が一致しない場合があります

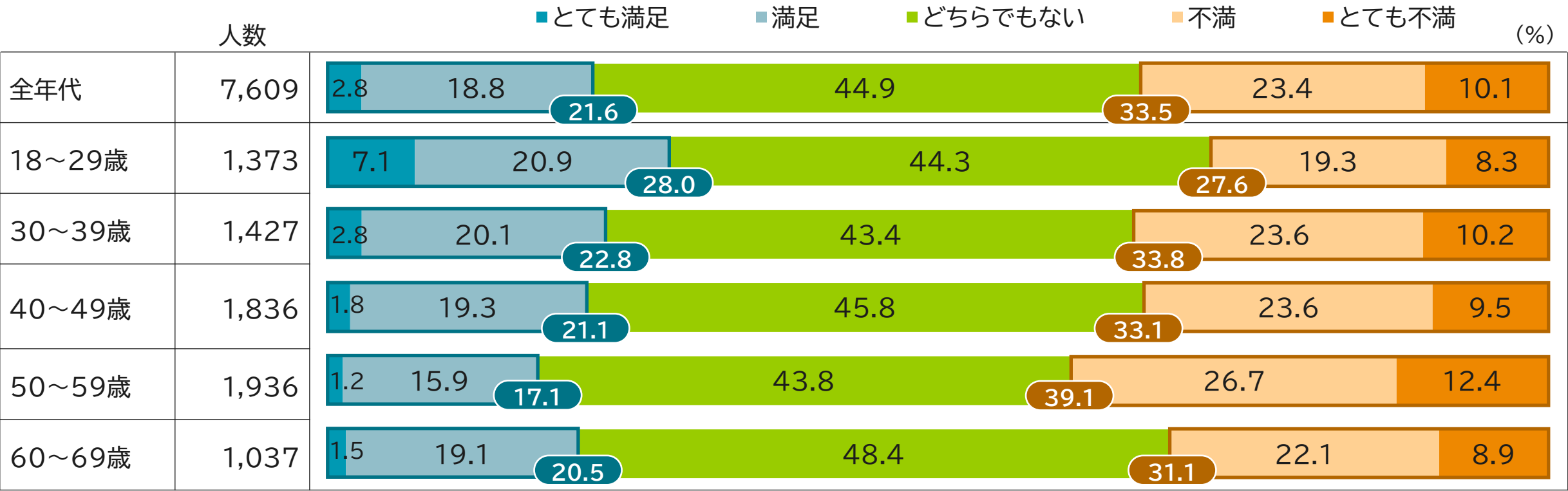
1

勤務先の報酬に対する満足度は？

- 年代別：報酬満足度は、若年層ほど高い傾向
- 年収区分別：年収と報酬満足度の比例は、1,000万円で頭打ちか
- 年代×年収区分別：年代が若いほど、報酬に対する満足度は高い

- 年代別に「会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)」に対する満足度を調査
- 18～29歳は「満足」の回答割合が、「不満」の回答割合を上回る結果に。一方で、年代が上がるに従い報酬満足度は減少傾向(60代を除く)

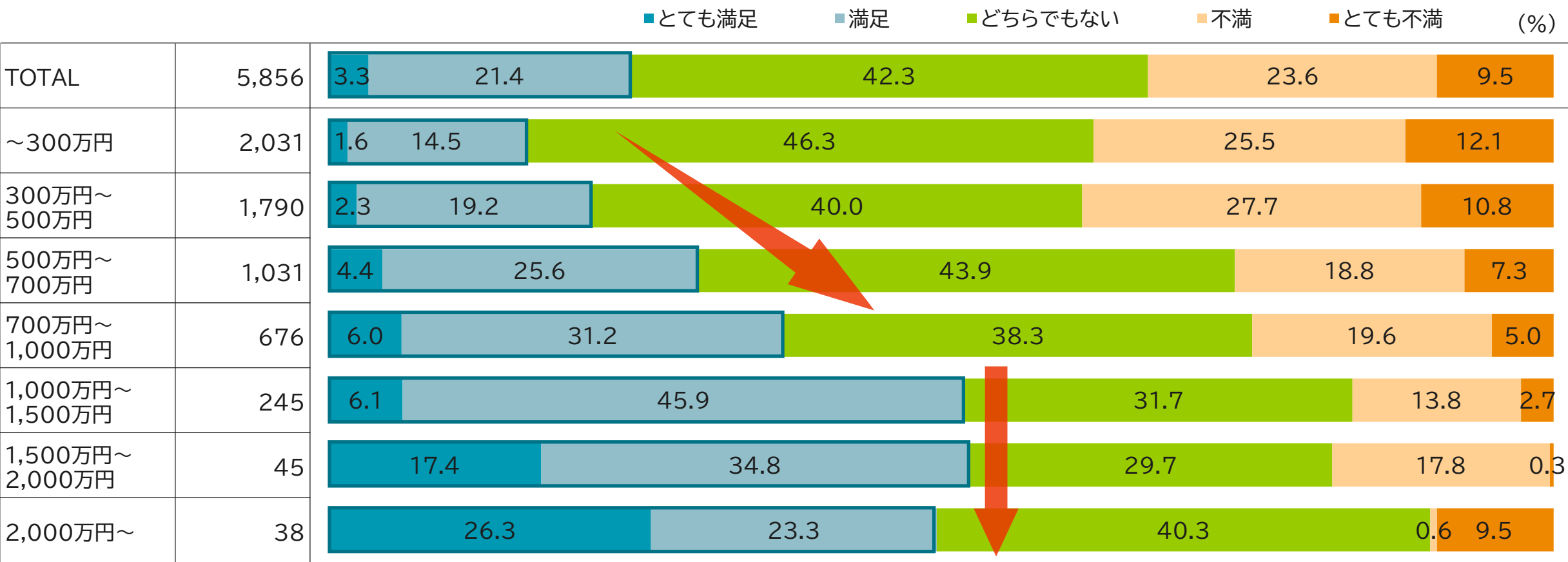
図表1 年代別 会社・団体の報酬水準に対する満足度



年収と報酬満足度の比例は、1,000万円で頭打ちか

- 本人の年収別に「会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)」に対する満足度を調査
- 年収1,000万円付近までは、年収と満足度は比例して上昇。それ以上では、満足度は横ばい(ただし、「とても満足」の回答者は増加)

図表2 本人年収別 会社・団体の報酬水準に対する満足度



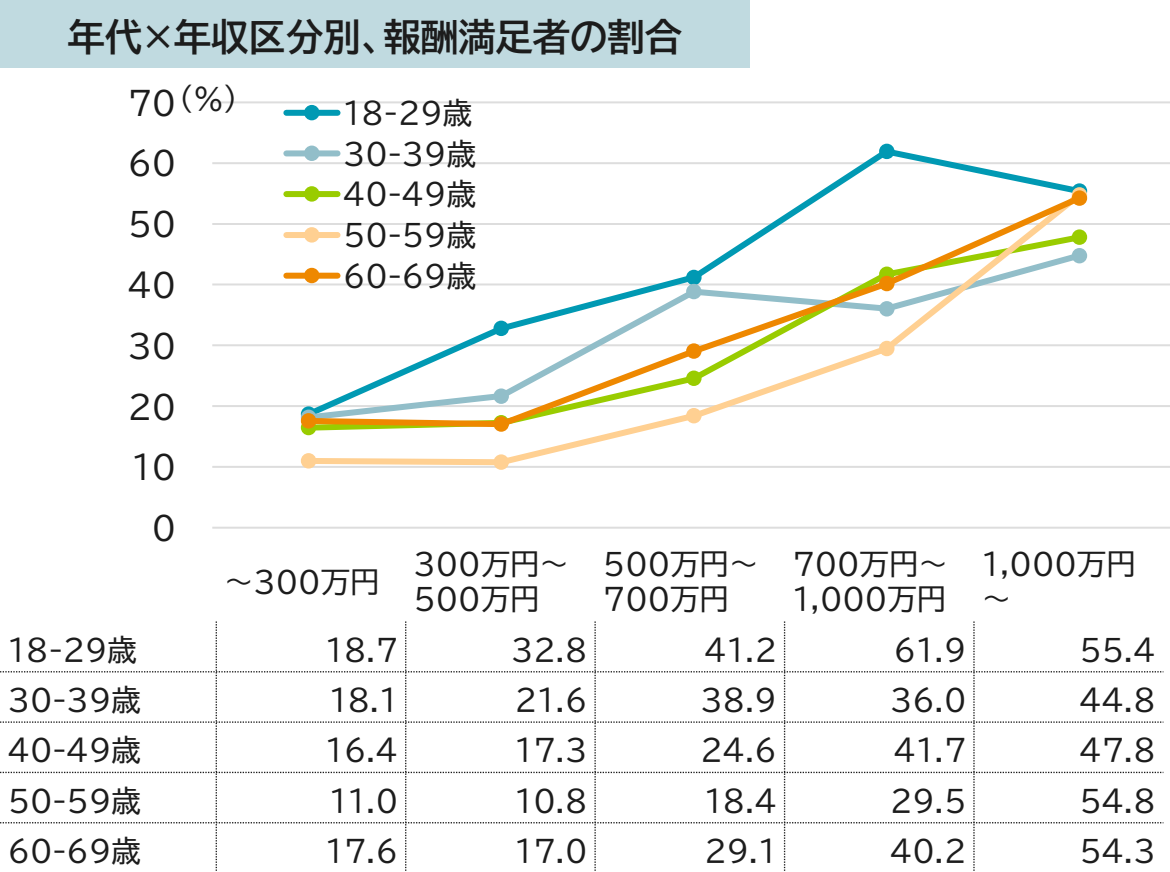
年代が若いほど、報酬に対する満足度は高い

- 年代×年収区分で報酬満足度を分析。どの年収区分も、若年層(18-29歳)ほど報酬満足度が高く、50代は低い傾向
- 一般的に家計の支出が増えやすい40代・50代ほど、報酬に対する不満が大きい傾向。一方で、1,000万円以上となると、報酬満足度は急上昇

図表3 報酬満足度が高い人の割合(年代×本人年収)

*本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

年代×年収区分の人数分布						
	～300万円	300万円～500万円	500万円～700万円	700万円～1,000万円	1,000万円～	総計
全年代	2,031	1,790	1,031	676	328	5,856
18-29歳	403	501	182	30	31	1,147
30-39歳	382	396	264	104	41	1,187
40-49歳	434	382	260	213	87	1,376
50-59歳	481	291	245	242	133	1,392
60-69歳	331	220	80	87	36	754



2

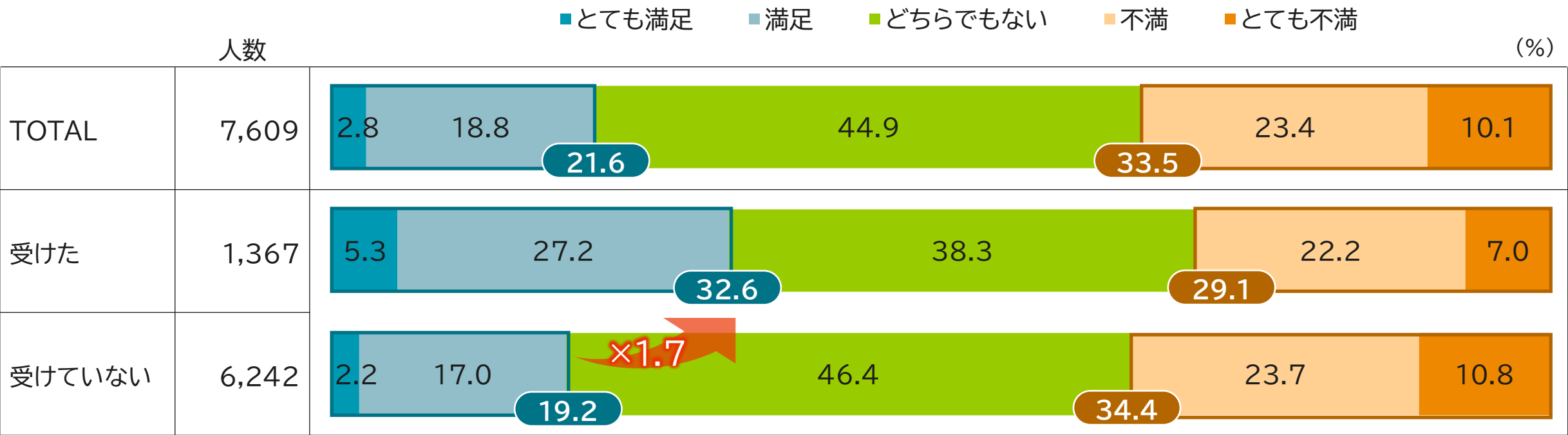
報酬満足度を上げるカギは？

- どの年収区分でも、職場での金融教育受講経験がある人の方が報酬満足度が高い
- どの年収区分でも、退職金水準を把握している人の方が報酬満足度が高い

職場での金融教育受講経験がある人の方が報酬満足度が高い

- 職場において金融教育の受講経験がある人は、ない人に比べて、報酬満足度が高い人の割合が1.7倍（不満な人の割合が2割減）

図表4 職場での金融教育経験と会社・団体の報酬水準への満足度

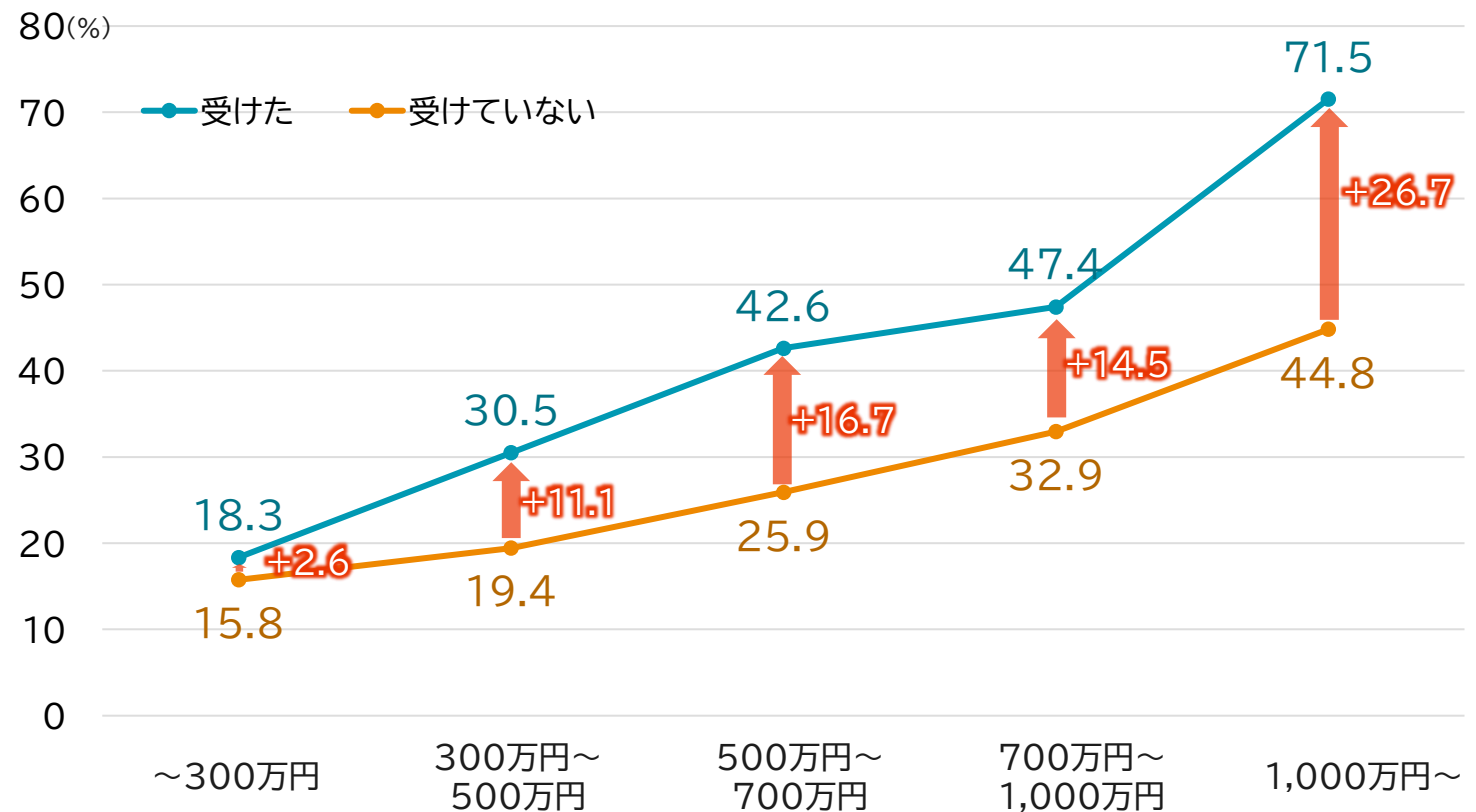


どの年収区分でも、職場での金融教育受講経験がある人の方が報酬満足度が高い

- 各年収区分における、職場での金融教育受講経験の有無別の報酬水準満足度を調査
- どの年収区分も職場での金融教育受講経験がある人の方が報酬満足度が高く、その差は年収が高い方が概して大きい

図表5 職場での金融教育経験と報酬満足度が高い人の割合(年収別)

年収	職場における 金融教育経験	人数
TOTAL	-	5,856
～300万円	受けた	269
	受けていない	1,762
300万円～500万円	受けた	333
	受けていない	1,457
500万円～700万円	受けた	255
	受けていない	776
700万円～1,000万円	受けた	196
	受けていない	480
1,000万円～	受けた	84
	受けていない	244

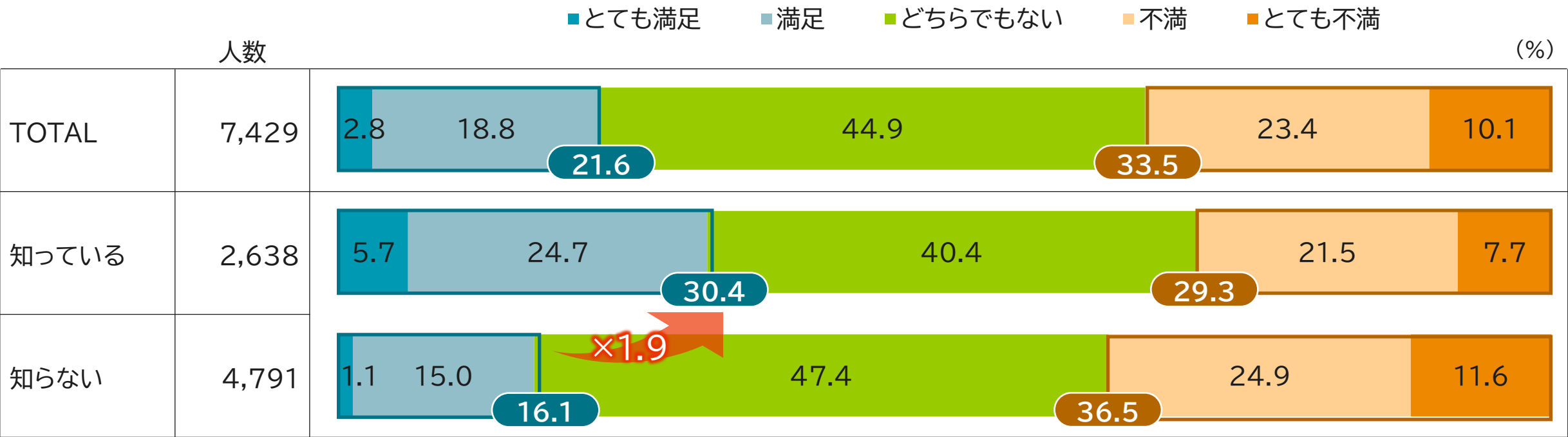


* 本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

退職金水準を把握している人の方が報酬満足度が高い

- 退職金の水準を把握している人は、そうでない人に比べて、報酬満足度が高い人の割合が1.9倍（不満な人の割合が2割減）

図表6 退職金水準の把握状況と会社・団体の報酬水準への満足度



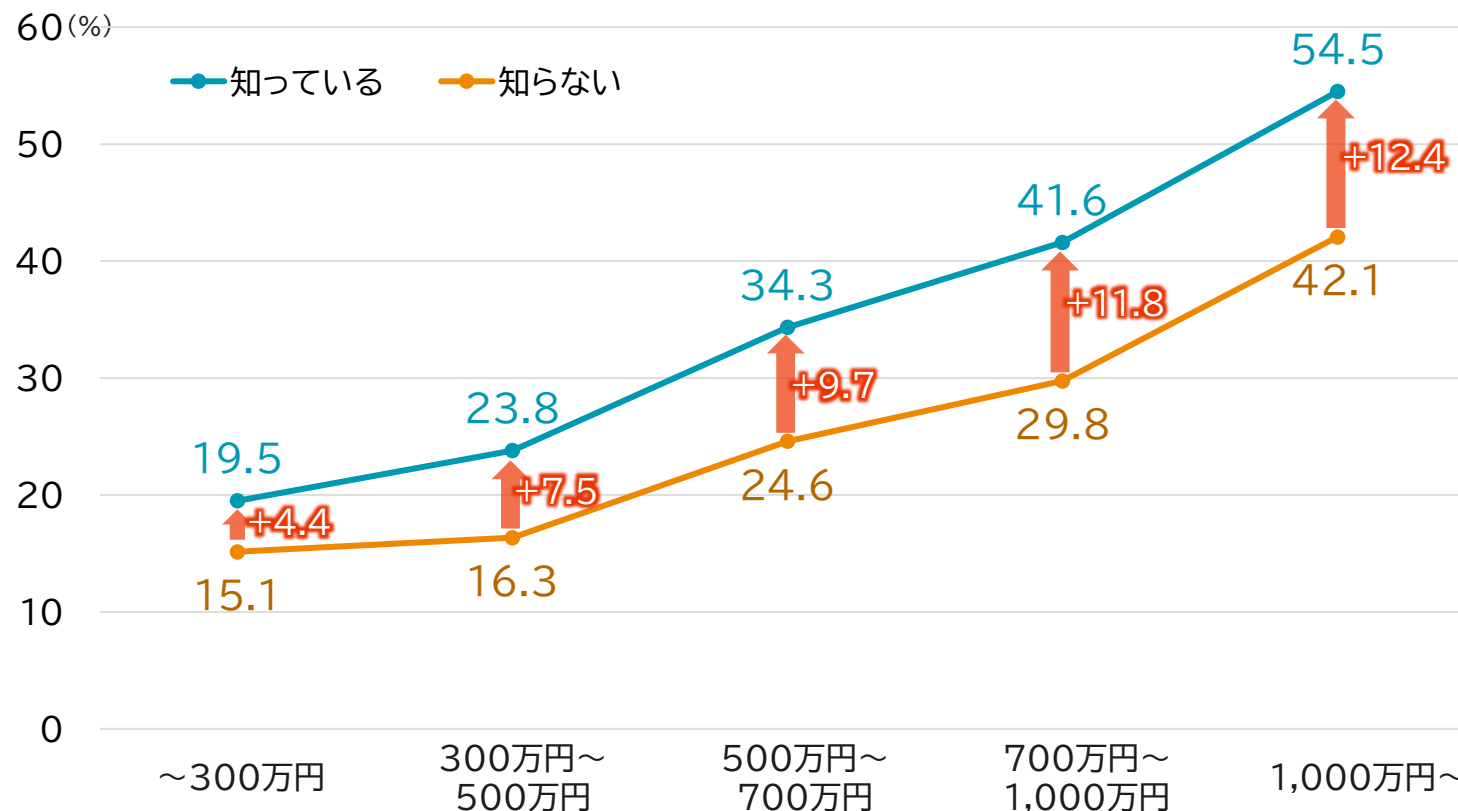
*対象:会社役員・経営者を除く勤労者

どの年収区分でも、退職金水準を把握している人の方が報酬満足度が高い

- 各年収区分における、退職金水準の把握度別の報酬水準満足度を調査
- どの年収区分でも退職金水準を把握している人の方が報酬満足度が高く、その差は年収が高い方が概して大きい

図表7 退職金水準の把握状況と報酬満足度が高い人の割合(年収別)

年収	退職金水準の把握	人数
TOTAL	-	5,714
～300万円	知っている	465
	知らない	1,558
300万円～500万円	知っている	640
	知らない	1,128
500万円～700万円	知っている	520
	知らない	482
700万円～1,000万円	知っている	388
	知らない	252
1,000万円～	知っている	173
	知らない	108



*対象:会社役員・経営者を除く勤労者 *本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

3

勤労者の報酬満足度と家計行動

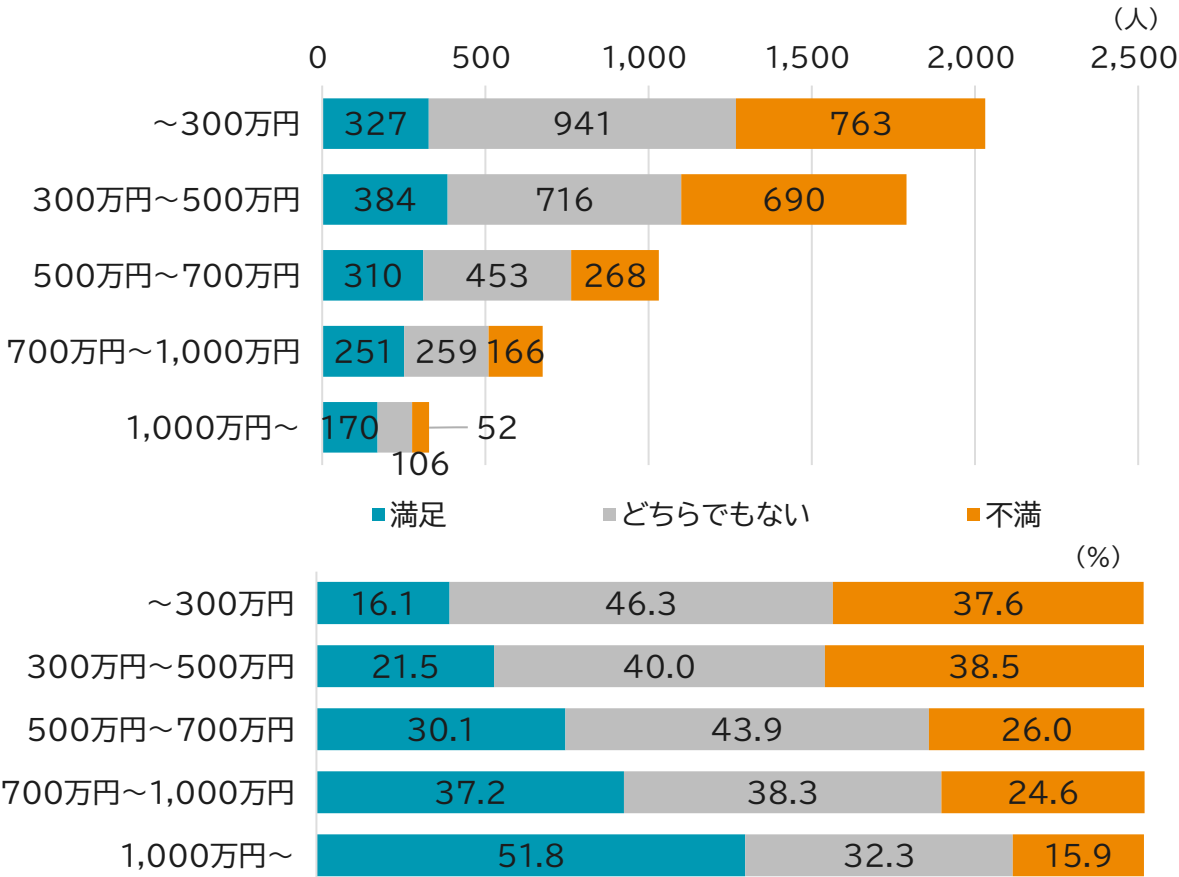
- どの年収区分でも、報酬に満足している人は家計管理をしている
- どの年収区分でも、報酬に満足している人はライフプランを立てている
- どの年収区分でも、報酬に満足している人は、金融リテラシー（自己評価）が高い人が多い
- どの年収区分でも、報酬に満足していない人は、お金の面で苦労している人が多い

- 勤労者が報酬に満足していない原因は、金額の問題だけでなく、人事評価や業務内容など様々な要因が複雑に絡み合っていることが考えられる
- 本レポートでは、“**勤労者の家計行動**”の面から、「**報酬に満足している群**」と「**報酬に不満がある群**」の比較を行った

図表8 会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に対する満足度:3段階尺度

人数分布(単位:人)			
	満足	どちらでもない	不満
TOTAL	1,442	2,475	1,939
～300万円	327	941	763
300万円～500万円	384	716	690
500万円～700万円	310	453	268
700万円～1,000万円	251	259	166
1,000万円～	170	106	52

割合(単位:%)			
	満足	どちらでもない	不満
TOTAL	24.6	42.3	33.1
～300万円	16.1	46.3	37.6
300万円～500万円	21.5	40.0	38.5
500万円～700万円	30.1	43.9	26.0
700万円～1,000万円	37.2	38.3	24.6
1,000万円～	51.8	32.3	15.9



どの年収区分でも、報酬に満足している人は家計管理をしている

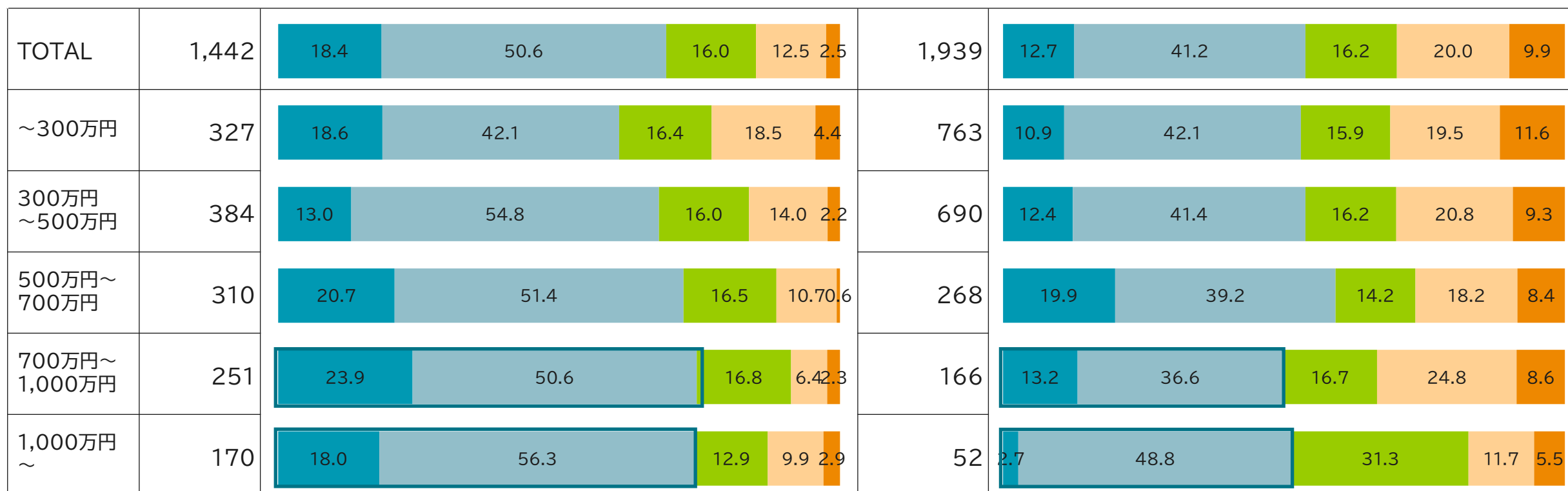
- 報酬満足度が高い群と低い群において、1ヶ月の収入額・支出額の把握状況を分析
- 年収700万円以上で報酬に不満がある人は、収支把握ができている割合が半数程度にとどまる

図表9 (報酬満足度別)1ヶ月の収支把握状況

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に満足

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に不満

■ 把握している ■ ある程度把握している ■ どちらともいえない ■ あまり把握していない ■ 把握していない (%)



*本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

どの年収区分でも、報酬に満足している人はライフプランを立てている

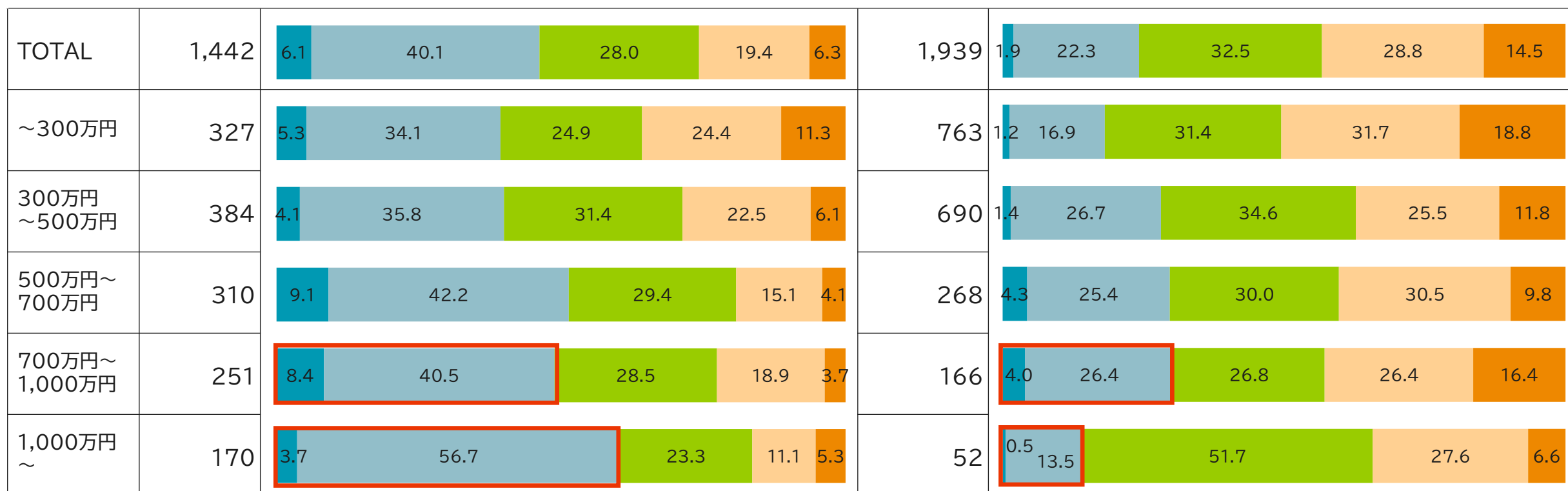
- 報酬満足度が高い群と低い群において、ライフプランを立てているかを分析
- 年収700万円以上で報酬に不満がある人は、満足度が高い人に比べてライフプランを立てている割合が少ない

図表10 (報酬満足度別)ライフプランの策定状況

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に満足

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に不満

■ 立てている ■ ある程度立てている ■ どちらともいえない ■ あまり立てていない ■ 立てていない (%)



*本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

どの年収区分でも、報酬に満足している人は、金融リテラシー(自己評価)が高い人が多い

- 報酬満足度が高い群と低い群において、金融リテラシーの自己評価を分析
- 年収700万円以上で報酬に不満がある人は、およそ4割が金融リテラシーの自己評価が低い結果となった

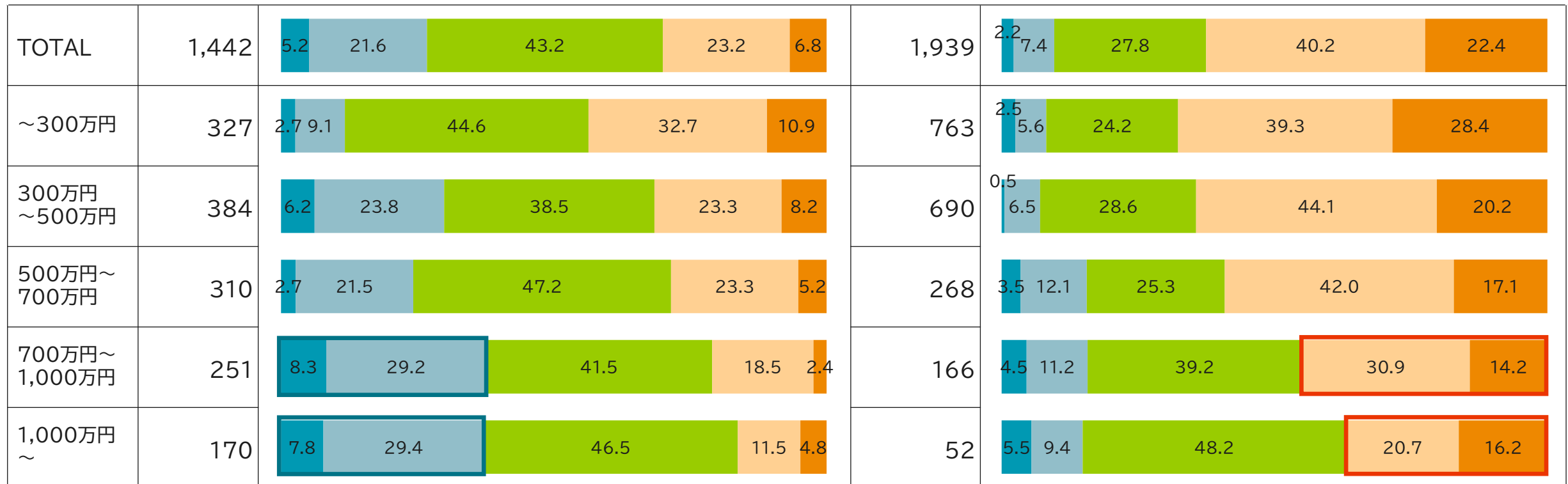
図表11 (報酬満足度別)金融リテラシーの自己評価

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に満足

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に不満

■ かなり高いと思う ■ 高いと思う ■ 普通 ■ 低いと思う ■ かなり低いと思う

(%)



*本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

どの年収区分でも、報酬に満足していない人はお金の面で苦勞している人が多い

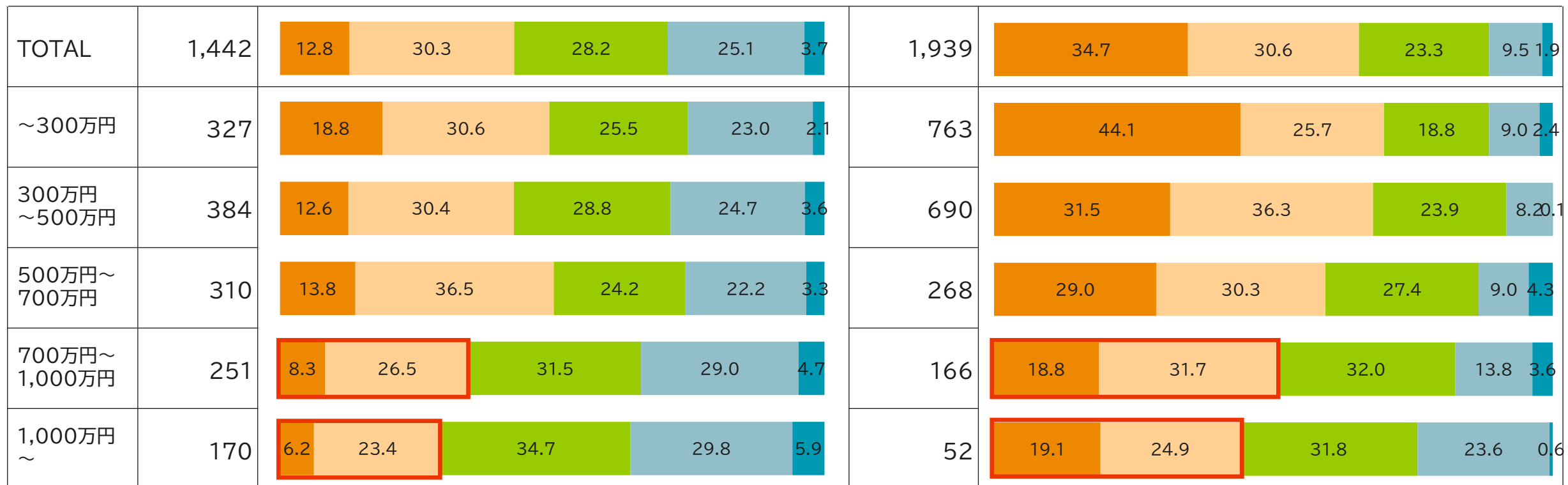
- 報酬満足度が高い群と低い群において、自己実現に向けてお金の面で苦勞しているかを分析
- 年収700万円以上で報酬に不満がある人は、およそ4～5割がお金の面で苦勞していると回答

図表12 (報酬満足度別)お金に関する苦勞をしているか

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に満足

会社・団体の報酬水準(給与・賞与・退職金等)に不満

■ 苦勞している ■ 少し苦勞している ■ どちらともいえない ■ あまり苦勞していない ■ 苦勞していない (%)



*本人年収について「わからない、答えたくない」との回答者を除く

© SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

ご留意事項

- 本資料は、情報の提供を目的として作成しており、具体的な対応についてはお客様のご判断により行っていただくことになります。お客様のご判断によって行ったご対応の結果生じた損害につきましては、弊社は一切責任を負いません
- 本資料は、作成日において弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成したものであり、その情報の正確性・確実性について保証するものではありません。また、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます
- 本資料に係る一切の権利は、他社資料の引用部分を除いて三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。本資料の一部または全部を転載・複製する際は、弊社にご照会くださいますようお願い申し上げます

ご照会先

三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所
mirai@smtb.jp

作成日: 2025年5月29日
564-25-2014